

前回のあらすじ

ここに来て、急に箱鳴りの付帯音や共鳴が気になった吉野。そこで前回は定在波対策として、エンクロージャー内部に卵パックを貼り付け、クセを封じ込めて、立体的な音を手に入れることができた。しかし、繊細な再生音(神経質とも言える)になった反面、当初の豪快な鳴りっぷりの良さは失われた。果たしてこの方向性でいいのだろうか?と戸惑う我々。「細かい音も欲しいけど、もっと低音も欲しい」という

前回は定在波対策として、全面に卵パックを貼り付ける事に行き着いたが、暴れていた音が整うとまた別の不満が湧いてきた

相反する欲望の両立を目指し、やみくもに最終調整にとりかかった。

やっぱり低音がほしい…

吉野 前回、定在波対策として、卵パックを内部全面に貼り付けました。さらに、スピーカーの角を隅木で潰して箱鳴りのクセを潰していったわけですがどうですか? なんだかしよぼい音じゃないですか? 確かに細かい音は聞こえるようになったけど、そこじゃないだろうと。もっとズドンっていう低音がやっぱり欲しいです。

岸 結局、我々は相反することを求めているわけです。繊細で表情豊か、かつ豪快でパワフルな音を。職人の世界も同じです。本当にいいものは、相反する面を併せ持っています。面白くなってきた。やってみましょう!

裏板を持って工房へ行く岸氏

キューソン(丸ノコの音)

吉野 ちょっと、何やってるんですか?!

岸 裏板にスリットを開けてるんです。これで低音は出ますよ。

吉野 そりゃそうでしょうが! 邪道スピーカーは、バスレフで低音をこまかさなで、ストイックに密閉でいこ

連載

新感覚オーディオクラフト

俺流スピーカー! 邪道を往く

第9回
あちらを立てればこちらが立たず

アクロージュファニチャー 岸邦明×ステレオ編集部 吉野

アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

うと今までやってきたのに。

岸 仕方ないじゃないですか! これ以上、低音は出ないんだし。まあ聴いてみましょう。

【裏板、横長に15mm幅のスリットを開けて試聴】

吉野 ……ごめんなさい。前言撤回します。こっちの方がいいです。ズドンと来ました。

岸 ほらね(笑)。しかもスリットにすることによって、バスレフ臭さみたいなものはあまり感じない。

吉野 バスレフ効果で低音が出たのと同時に、空気の抜け道ができたせいか、ユニットからの音が活き活きしてるようです。ほら、歌声が笑ってますもん。いやー気持ちいいなあ。色んなジャンルのソフトを聴いてみましょう。

【ロック、クラシック、ソウル、打込み系などを聴く】

吉野 結構いい。でもまだ変なクセを感じます…。ちよっとスリットからの音がうるさいです。普段聴かないから別にどーでもいいんですが、オペラの声とか聴いててしんどいです。

岸 スリットの間にこれ、入れてみませんか。(スチールウールとステンレスたわし) これだと、そこまで吸音もしないかと。

最終的に横置きでセットするので、なんとなく15mmのス 裏板を丸ノコで大胆にカット！ 密閉からスリット 今回は、微調整ということで、普段聴かないようなジャンル
リットを横向きにつけた バスレフに (クラシック系) まで含めて、弱点をシラミ潰しにしてい

【スリットに挟んで試聴】

吉野 大分抑えられましたね。でも根本的に解決してないなあ。もつとスリットを拡げてみませんか？

岸 今までの15mmから、20mmいつてみますか。

【スリットの幅を拡げて試聴】

吉野 あー、OKです。適度なゆるさが出ました。ゆったりと低音がなつてうるさが減りましたね。ふう…、前回もそうでしたが、微調整は疲れま

岸 最初に比べると、地味な作業で辛いですよね。でも、間違いなく今までが一番いいです。着実に前進してま

吉野 でも、まだベストとは言えないような…。低音が出ると、その分クセも乗ってきて、もうよくわからなくなってきました。(若干、飽き気味)

岸 いい落としどころを自分で見つけるしかないですね。最後に、裏板を松に変えてみましょう。柔らかい木なので、適度な吸音効果もあり、裏板へのプレッシャーが抑えられるんじゃないでしょうか。実際、アコースティックギターでは表面には松(スプルース)、裏側とサイドには樺木のローズウッドやマホガニーなどの組合せが使われて

います。

吉野 なるほど、言われてみればそうかもしれません。

【裏板を松に変えて試聴】

岸 箱鳴り感というか、うるさが減りましたね。ここまできると、悪いところが見当たらない。僕は究極的にいい音というのが聴いたことがないんで、これがいい音なのか、正解なのか、もう分からないです。

吉野 確かに、どんな曲もそつなく鳴らしますね。弱点も見当たらない。でも何か大人しくなりすぎて物足りないんだよね。やっぱり裏板もウォールナットの方が、このスピーカーらしくていいや。理屈抜きで単純に音楽聴いて楽しいのはウォールナット。もつこれしかないでしょ。

岸 結局、最後は感覚に忠実に行くしかないか。危うく邪道スピーカーの本質的な部分を見失うところでした。音が音楽に勝っちゃうとこでした。

吉野 以上でOKです。足やインシュレーター、端子、内部配線なんかは、あとでどうにでもなる。スピーカーはこの仕様で完成としましょう。

岸 わかりました。いよいよ本番仕様でステレオ分を作りますか。最終完成まであとわずかですね。

エンクロージャーで最も振動している裏板を、松の無垢 10時間にも及ぶ試聴&実験。いったい何が正解なのか。やはり、スリットからの音が気になる…。適度に風圧を
に交換してみた 途方にくれる我々 抑えるため、隙間にステンレスたわしを詰め込む

SPクラフトマスターの辛口コメント スリットとバスレフを混同しているようだが、まったく別物だ。スリットは正確には背圧抜きだ。最近のスピーカーではあまり見かけなくなってきたが、背圧抜きは古いエンクロージャーによく使う工法だ。昔のスピーカーユニットは振幅が命、いかに効率よく振動板を動かすかが重要視されていた。さて、最終的な調整の着地点は、「いかに気持ち良い鳴り方をさせるか」で、欠点よりもユニットの長所を伸ばす考え方が正しいだろう。